

まさか面白そうだから
最近はやってる憑依や
転生をやってみようかと
いう理由で殺されると
は思わなかった

青桐 悠太

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

同人誌を買いに行こうとしたら案の定、テスト期間中だから行くなと親に止められたが「今日を逃すと売り切れるかもしれないから行く。雨が降ろうと槍が降ろうと絶対に行く」と言ったがまさか本当に槍が降ってきて頭に直撃して死ぬとは思わなかった。

これは神に面白半分で殺された主人公が転生のための条件をつける部分を書いただけの短編。

さて、どこに転生しよう

目次

まさか面白そうだから最近はやってる憑 依や転生をやってみようという理由で殺 されるとは思わなかった	1
---	---

まさか面白そうだから最近はやってる憑依や転生をやつてみようという理由で殺されるとは思わなかった

目が覚めたら目の前が真っ赤だった。

「気がついたか」

「お前は誰だ」

「神だよ」

あーあれだなきつと君は死んだから転生させてあげようとかそんなノリだな。

「そのとおり、最近二次小説にはまってテンプレとかチートとか面白そうだから、そこからへの人物適当に殺して転生させようと思つて物色してたら、偶然君を見かけて殺したんだ」

思い出した。道を歩いてたらいきなり槍が降つてきて頭に直撃して死んだんだ。

「もしかして、雨が降ろうと槍が降ろうとと言つてたからほんとに槍が降つても実行するかどうか試してみようとか言う理由で殺したわけじゃないだろうな」

「そうだけどそれが何か？」

とりあえず胸倉つかんでぶん殴るために動こうとしたら、急に体が動かなくなった。

「殴ろうとしても無駄だよ」

何で殴ろうとしたのが解ったんだ・・・そういや最初しゃべってないのにあたりとか
言ってたっけ。神なら心くらい読めてもおかしくないかもしれない。

「能力決めさせてあげるよ」

俺は黙ってポケットに入ってる紙にほしい能力を書いて渡した。

「何々？ 完全記憶能力に死ぬたびに記憶と能力を全て保つたまま転生する能力
に・・・って長いな!？」

「最近読んだ本の能力で思い出せるの全て書いたからな。といつても役に立ちそうなの
しか書いてないけど」

「わかった。転生先は着いてからの楽しみ。じゃ、逝つてらっしやい」

そのとたん足元に穴が開き俺は重力に従って落下していった。

・・・神って鬼畜だったんだな